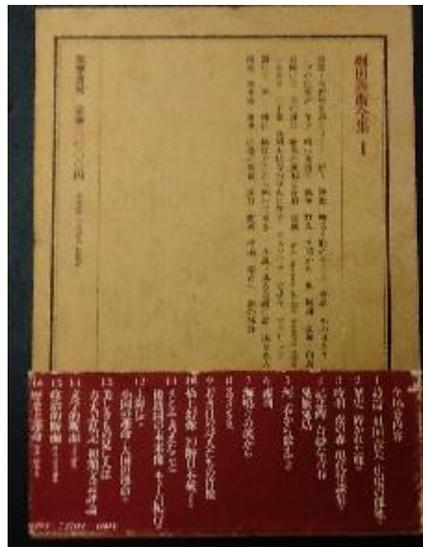
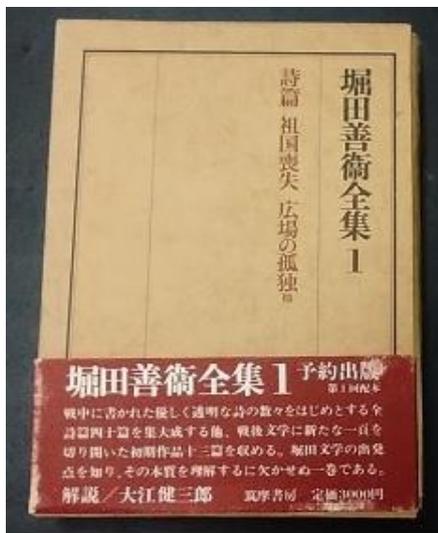


essais ころみ 2020年2月

(再掲) 2019年4月1日(月) 朝のうちは晴れ、新元号発表「令和」
『堀田善衛全集』見なおす試み

堀田善衛全集(筑摩書房 1974年6月20日発刊開始)



2020年2月3日（月） 晴

今日は節分、明日立春。今朝はかなり冷えたが、暖冬のままこの冬は過行くよう。春近し。

ー 『女性チャレンジ応援拠点』 3周年 ー

ー昨日2月1日に3周年記念イベントがあった。トークセッションと交流会。前半のトークセッションのゲストは、「拠点」を足がかりに未来を拓きはじめてた利用者（＝「拠点女子」！）代表4名。

「拠点」は、“チャレンジ”の想い、ただそれだけで、予約なく、ふらっと立ち寄るのもOK、スタッフや居合わせた他の利用者と自由に対話ができる。週5日、開室時間は2時間だけど、通うのも可なのがいい。

ゲストのみなさん口々に、よき仲間ができたことが飛躍のきっかけにもなった、とのこと。ある時初めて訪れた人が帰りがけに一言、『他の利用者へのスタッフの方のお話、アドバイスがすごく為になりました！』。

チャレンジしたい内容だけでなく、なぜそれなのか、どんな背景があって、その想いにいたったのか、そういうことを初対面でも話し合えるのは、やりたいことは違っても、想いは同じだから。

おたがいにどんどん掘り下げ語り合う。それがそれぞれの知を刷新する。すると動き、行動様式もかわってきて、小さな機会を呼び込むことになり、未来が徐々に拓いていく。

そのうち、話し方、見た目の印象までかわってきて、若年も熟年も年齢に関係なく、凜とした姿がカッコいい！

2020年2月7日（金） 晴⇄曇り

寒い！ この冬初めてロングコートを着た。来週にはまた気温は15℃ぐらいまで上がるらしいから、なごり冬か。けっきょく大阪市内で雪をみることなく、冬がすぎそう。

ー 読みたくなる『私の履歴書』 ー

新聞は日経しかとっていない。だいたいの記事は引いて読む。顔を近づけて読むのは、FINACIAL TIMESのコメンテーター記事。あとは文化面。日経は文化面が秀逸だと以前から思っている。

文化面その左上にある『私の履歴書』、読む時と読まない時あり。トピック史のような場合はすぐに読まなくなる。今月の「十五代樂吉左衛門」は初日2月1日の文に、“これは読もう…”。

過去の執筆者で印象に残っているのは3名。直観の才をみた「ミヤコ蝶々」、不遜ながら何か通じるものを感じた「ピーター・ドラッカー」、過去の恋を語った「小倉昌男」。

葛藤や精神の昇華、自問自答の履歴が率直に語られたとき、惹きつけられる。人は誰でもその人なりの物語があるから、中身はちがっても、迫ってくるものがある。今回がまさにそう。

精神的なもの、感覚的なものを言語化すること自体、なかなか難しい。その才も合わせ持つ人は少数派だろうと思う。さてさて、来月の執筆者には少々プレッシャーではないかと、余計な心配。

2020年2月13日（木） 曇りから晴れ

朝、雨上がり、外へでると空気が生暖かい。徐々に晴れて、お昼前に外へ出たら、陽ざしが強かった。歩いているうちに少しあつくなった。ただし来週はまた寒くなるよう。

－ 身を守るためにも…読書 －

昨年末に出版社から届いたMLをみて、“これは買いた…”と早々に購入した『大衆の強奪 全体主義政治宣伝の心理学』（セルゲイ・チャコティン 創元社 2019年11月）。1940年に出た本、でも日本初全邦訳らしい。今の時代を読む解くヒントがあるとみた。

合間をみて少しずつ読み始めているが、時代を読む解くと同時に、一庶民として、自分の身を守るためにも、読んでおいた方がいいのではないかと感じだしている。『凡庸の悪』に陥らないために。

戦略やマーケティングをそれなりに学んだものとしても、読んでおいた方がよさそうな気がする。節度と良識ある働き&働きかけに努めるために。ともあれ、社会的知性を磨く一つの学びになる本の予感。

読書はすぐに何か目にみえて効果が出るものではない。長い時間をかけて精神の糧になっていく。その長い時間が十分経ったからか、特に最近、しみじみそう感じる。

人から感心されて気づく、人に直感できないことができ、想像できないことができている。じゃ、なぜそうできるのか…。おそらく若い頃の読書だ。特に小説類が効いたのではないか。人の多様な営み、社会の姿。

そこに見て感じたものが心身にしみ込み、自分なりの感覚や考えをつくっていった、社会的知性にもなった。そう考えると、読書の意義は深く広い。自分を守る基盤にもなっている。これが今日この頃の雑感。

2020年2月21日（金） 晴れ

よく晴れて、気温もふたたび高め。春めいて、青い空に、意気揚々としてくるが、かの新型ウィルスの肺炎が不気味な状況に。

－ 中止、キャンセル、三連休 －

ここにきて中止やキャンセルのニュースが相次いでいる。それが身近にも及んできた。いずれも今回は呼ばれて行く側だったので、事前の思考作業が使うことなく終わるだけ。

でもハード・ソフト両面で準備を重ねてきた当事者や裏方のみなさんは残念無念。相当にガッカリのはず。新型肺炎の広がりが今度どうなるのか、まさかオリンピック開催にまで影響を及ぼすことはないと思うが。

明日、明後日とすっかり時間が空いた。明日は特に天気が荒れるらしいから、今回の三連休は静止を決め込もう。こういう時は日頃後回しになっていることをやり、今やっていることを見なおしてみるといい。

昨年初夏のこと、ふと時間が空いた時、何一つ買うことなく、思い通りの「ブックバック」をつくることができた。小手帳とスマホと眼鏡ケースを一括りにしてショルダーにしたものも、できた。コレ、すごく便利。

さてこの三連休は、昨年末いただいてまだ読んでいなかった『昭和のはじめの子どもたち』（荒木昭太郎）を読むとしよう。この本は「文集」を表現されている。この文集という言葉自体、ノスタルジック。

